



2-2 政治家との協働

～立法府を巻き込むことは民主主義の基本～

キーワード ・議員連盟 ・超党派 ・議員勉強会

●このテーマで目指すゴール

- ・政治家への働きかけ方を理解する
- ・政治家との協働の際のポイントを理解する
- ・政治家への効果的な働きかけができるようになる

患者さんからの質問

地域の医療政策について政治家に関心を持ってほしいのですが、政治家と話をしてもいいものか、どうすれば話を聞いてもらえるのか、まず、そこからが分からないのです。

●なぜ、政治家（議員）なのか

医療政策について、なぜ行政ではなく政治家に働きかけるのでしょうか。世論調査アンケート（注1）によると、医療政策決定を主導するものとして、国民の政治家への期待は高くはないですが、選挙民が政治家を選び政治家が政策を決定するのが、民主主義の基本です。

国会議員は国の法律や予算に責任があり、都道府県の議員は地方公共団体の条例や予算に責任があるからです。また、近年、日本の政策決定は従来の行政主導から政治主導へ変化すべきとの意見も高まっています。

「医療は政治」とも言われます。これは、医療サービスにおける不備や格差などの問題は、多くの場合、政治が関連する法令、予算、政策などともある程度は関連しており、政治が動いてこれらに関する対処が行われた場合、そうした問題が解消することがあることを意味します。

●政治家（議員）との付き合い方

議員とはどのようにコミュニケーションすればいいのでしょうか。ここでは、次の5点を挙げておきます。

(1) どの議員と話をするか

これに関しては、本書1-4「対象の設定」で考えました。望む変化を引き起こせる当事者性のあるキーパーソンを選ぶことが大切です。超党派での取り組みの形にしてもらうことも重要なポイントです。

(2) 議員の仕事

法律や条令づくり、議会での質問など、議員にしかできない、議員としてやりがいのあ

る仕事をしてもらうことが重要です。

(3) 適切な距離感

特定の党派や議員とだけ親しくするのではなく、超党派を視野に入れ、議員の役割やポジションに応じて、複数の議員とコミュニケーションをできるようになっていることが大切です。議員は政治家として、アドボケートは社会活動家として、それぞれ“役割”と“仕事”でやっています。お互いに“貸し借り”の意識にならないことも大切でしょう。

(4) 議員を知る

議員は多忙な場合が多いです。話ができる機会があれば、端的に要領よく伝えることが大切です。エレベータートークといって、15秒ぐらいのうちに言いたいことを伝える方法などのテクニックも存在します。こうしたことについては、本書4-9「プレゼンテーション」本書4-6「文章力」を参照してください。また、個別議員の党派、支持母体・地盤、選挙の際の公約、これまで推進した政策なども把握しておきましょう。生活サイクルを知ることでも重要です。国会議員は金帰火来と言われます。火曜日から金曜日までは東京に、金曜日午後から月曜日までは地元にいるという意味です。面談の約束時間の設定はそうしたことを考慮に入れましょう。

(5) 情報提供

議員によっては政策通の方もいますし、優秀な政策秘書がいる場合もあります。また、ブレン役を揃えている場合（有識者が知見を提供し議員を支える）もあります。それでも、あなたが取り組んでいる分野については詳しいとはかぎりません。その問題については、あなたがブレンになることができます。あなたが取り組んでいるテーマに関して議員連盟を立ち上げる、議員勉強会を開催するなどを提案し、企画力でも貢献できるかもしれません。

近年では、議員連盟が条例制定に取り組むなかで、地域住民との意見交換会を設けたり、アンケートを実施したり、地域キャンペーンに患者団体と共に取り組むなど、複合的な協働活動も生まれてきています。

（注1）特定非営利活動法人日本医療政策機構 「日本の医療に関する2008年世論調査」での、「国の医療制度改革は、誰が主導して決定すべきだと思いますか？」への回答で、市民代表・患者代表62%に対し、議会・与党は17%。

◇ さらに詳しく知りたい方のために

- ・『国会便覧』日本政経新聞社
- ・『政官要覧』政官要覧社
- ・今井照『超入門 地方自治制度はこうなっている “自治体の議会と議員”』、学陽書房、2004年